
Wheel of Fortune

鳳 永遠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

W h e e l o f F o r t u n e

【Nコード】

N 0 5 7 4 B

【作者名】

鳳 永遠

【あらすじ】

幼い頃に親を殺された姉弟の物語

プロローグ（前書き）

えゝ、初投稿&初作品です。文章力は…ですが、まあ、書いているうちにまともになる…と思います…自信ありませんが…

プロローグ

「まったく…惨めなものだねえ…」

燃え盛る村の広場、漆黒のロープを纏った男が、足元に横たわる一人の若い男に感情の無い声で呟いた。

「せっかくの強い力も、使わなければ意味が無いだろうに……違うかい？ギース」

ギースと呼ばれた男は、自分の身体で辛うじて動く首を黒ロープの男に向けた…

「ア…アンヘル……な…何…故……こんな……事………」

アンヘルと呼ばれた男は、今まで無表情だった顔に不気味な笑みを浮かべて答えた。

「おいおい、質問に質問で返すなよ…困ったヤツだなあ…まあ、いや、何故かって？君も薄々は気付いていたんじゃないかい？私が【アレ】を狙っていたことを。」

「…ま……まさか…」

「そう、その『まさか』だよ」

アンヘルはギースの顔の前にしゃがみこみ、人指しゆびを立てクルクル回しながら

「えいつ」

とギースの額をこづいた。

「グッ……」

「それでさあ、【アレ】何処にあるか教えてよ。一つは見つけたんだけどさ、あと二つがねえ……ん!? 一つと一体か♪ククク」

「だ…誰が……」

「おいおい、意地悪言つなよ。どうせ君が持ってたって使わないだろうに。」

仕方ないな、拷問は好きじゃないんだがね……」

アンヘルがギースに向かって何かを呟きかけたその時。

「おとうしゃん……?」

まだ火の手が回っていない森の方から小さな男の子が一人…

「来るなっ!!! 逃げろ!!! ブラッド!!!」

ギースは残された力を振り絞りブラッドと呼ばれた子供にさげんだ。

「おや? ギース、可愛い子だねえ〜」

アンヘルの不気味な笑みがよりいっそう深くなり。ブラッドに手のひらを向けた。

「ねえ、ギース何処にあるか教えてくれるよね?」

「クッ…」

「おや？息子さんより【アレ】の方が大事なのかい？」

「…や…約束し…ろ…子供の…安全を…」

「私も鬼じゃないからね。約束するよ。で、隠し場所は？」

「…俺…の…妻の…墓…だ…」

「な〜んだ、案外わかりやすい所だね。盲点だったよ。ククク」

「教え…て…やったんだ…早く…消えろ…」

「まあ、そう急ぐなよ。まだお礼をしてないだろ」

とアンヘルが言うと同時に、ブラッドの身体に黒い影がまとわりはじめた。

「子供には手を出すなっ！！約束がっ…」

「とうしゃんっ！ー！」

ブラッドの叫び声は徐々にうすれ、黒かった髪と瞳が、髪は白く、瞳は紅く変色していた。

ギースは物凄い眼力でアンヘルを睨み、怒鳴った。

「キサマ…何をし…た！」

「おいおい、そんな恐い顔するなよ。ちょっとだけ悪戯しただけじ

やないの」

アンヘルは悪びれた様子もなく、ヘラヘラしながら言った。

「私はさ【アレ】を使うのには長い時間が必要だと思っただ。なんてったって君より魔力が低いからね。それでさ、成長したアンタの子供が私を止めに来たら面倒じゃん。だから危険分子は予め潰しておくのがいいと思ったワケよ。あ、命に別状は無いよ、魔力に異常があるけどね」ククク」

「…命…に…べ…別状は…無いん…だな…」

「無いよ」

「そ…そうか…フツ…フツ…」

「何がおかしいんだい？気でも狂ったかい？」

急に笑いだしたギースを不思議そうな顔で見下ろすアンヘル

「メアリ…間に…合っ…たか…」

「メアリ??」

アンヘルは不思議に聞き返した。と同時にギースは叫んだ!!

「飛べっ!!メアリっ!!」

その声と同時にいつの間にかブラッドの隣りにいた一人の少女が足元に素早く魔法陣を書き、呪文を唱えた。

「我は汝と契約を結びし者…風を司る精霊よ我の翼となりて舞い上がれ!!駆けよ!!」

メアリと呼ばれた少女の口から紡ぎ出された詩のような呪文は風を呼び少女達を包み込んで突風となって東の空へと飛んでいった。

「あゝらら、行っちゃった。あの歳であの呪文は凄いなえゝゝギースが教えたの？」

アンヘルは子供達が逃げた事など気にせずギースに聞いた。が…

「おい。聞ってる？あゝらら、逝つてやんの。情けないなあゝゝククク…さてと、墓荒しに行きますかな」

この時、彼は気付いていなかった…

三つの【アレ】の中の一体がすでにこの地に無いことを…

そして、十数年後に後悔した。子供達を逃してしまった事を…

回りはじめた

「運命の輪」

回りはじめたら

逃れることなどできない

回る…

回る…

運命の審判が決するその時まで…

プロローグ（後書き）

なんか…もう…プロローグからぐだぐだですみませんm（――）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0574b/>

Wheel of Fortune

2010年10月17日06時03分発行